



●内側(三つ折り)イメージ



三重県

三重県は、日本列島のほぼ中央に位置し、北は愛知県、岐阜県、西は滋賀県、京都府、奈良県、南は和歌山県と接しています。

人口は約184万人で、14市15町の29市町で構成されています。面積は約5,777k㎡で、東西約80km、南北約170km、総延長1,000kmを超える海岸線を有する、南北に細長い地形です(2012(平成24)年10月1日現在)。

風光明媚なリアス式海岸をはじめ、北はスキーで有名な山岳から、南は亜熱帯植物の群生する海岸まで、多彩な自然に恵まれています。

三重県の「み」を九強く特徴的にデザインしたもので、世界的に有名な賞状額面にも採用されています。また、左上が効になっている字は、風が増速することを表しています。(1964(昭和39)年4月20日制定)

三重県の鳥(シロチドリ)
鳥友は一方で、秋後鳥群れをたして行動します。水田畔から一見町にかけの海岸で見られますが、近年、その数が減少しつつあり、保護の必要が叫ばれています。(1978(昭和47)年6月20日指定)

三重県の宝(ハシラヅメ)
花輪は直立して分岐しないのが特徴です。若は初夏に散き、色は白・赤・薄紅など、桑名市の九条公園や明和町の表土の露、伊勢神宮の勾玉池などで見られます。(1969(昭和44)年9月22日制定)

5百円ハイカラクラッド貨幣

ハイカラクラッド貨幣は、2006年の5月15日現在から発行されている5百円硬貨の一種で、全国最大の造り手である東洋インコが製造しています。

(三重県)表面「熊野古道伊勢路」

○熊野古道伊勢路は、伊勢の熊野三山(熊野本宮大社、熊野速玉大社及び熊野新宮大社)に参る、平安時代以降の参詣道。江戸時代、参詣客を誘った旅人の宿場を目撃し大変賑わったとされています。

2004年(平成18年)に「熊野三山」、「熊野・大湊」及び「高野山」の三重県と、これら熊野参詣道を中心(紀伊山地の熊野古道)として世界文化遺産に登録された。

5百円ハイカラクラッド貨幣の概要

(各印の印像(左側) 裏面「三つのイメージ」)

製造 東洋インコ
素材 エポキシ樹脂、銅合金
重量 4.5g
直径 20.0mm
厚さ 1.5mm
その他特徴 両面防偽、書体等